

小鹿田焼の窯元の全9軒が被災

田村貴昭衆院議員は15日、九州北部を襲った豪雨で大きな被害を受けた小野地区を調査しました。大谷敏彰、日隈知重両市議、山下かい県書記長が同行しました。

田村衆院議員らは、川の氾濫や土砂崩れなどで一時孤立状態となった小野地区に入り、被災者の声を聞き取りました。

小鹿田焼の里、皿山集落。川は茶色に濁り、唐臼が土を砕く音は

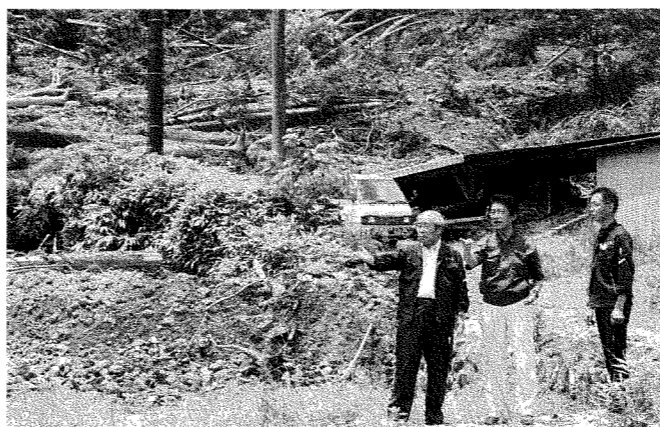
聞こえませんが、9軒の窯元のすべてが被災。集落にある唐臼39基が泥をかぶり、流されたりしました。窯元のひとつ、柳瀬裕之さんは、唐臼小屋に水を送る水路が泥に埋まり、その泥かきに汗を流していました。妻の柳瀬美由紀さんは「10日朝は雨と川の音がすさまじく、気づいた時には樋(とい)と、3基ある唐臼の1本が流されていた」と話しました。

田村氏は、窯をたく薪代など物価高騰の影響や窯元の高齢化など、集落が抱える課題なども聞き取り、「被害の実態、声を国や文化庁、中小企業庁に届けて対応策、支援を求めていく」と激励しました。(しんぶん赤旗7月19日付け)

小野・中山地区にも入り、山の崩落現場を視察。早急な災害防止が必要なことを確認しました。



▲ 窯元の柳瀬さんに被災状況を聞く田村貴昭衆院議員 (左から3人目)



▲ 小野中山地区の山林崩落を調査する田村氏ら (左から大谷市議、田村衆院議員、日隈市議)

田村衆院議員が党市議らと調査

九州北部
豪雨被害

豪雨生活再建に頑張る

田村議員
国政報告



▲ 財界中心、アメリカ言いなりをただすと熱く語る田村貴昭衆院議員 (15日、アオーゼ)

岸田政権を退場させ、元祖改革の党を伸ばそう

田村貴昭衆院議員(衆院九州・沖縄ブロック比例代表候補)は15日、アオーゼで開かれた国政報告会で訴え。「総選挙での党躍進で、岸田政権を退場に追い込もう」と呼びかけました。

書を受け、10月に4年ぶりの開催が予定されていた民陶祭が中止に追い込まれていると強調。「被害の実態と被災住民の要求、思いを政府にぶつけ、生活と生業(なりわい)再建を支えるため力を尽くす」と述べました。

岸田政権と悪政連合による大軍拡・大増税、保険証のマイナンバーカードへの統合などを厳しく批判。この日創立101年を迎えた日本共産党の、平和と自由、民主主義のたたかいの歴史にもふれ「財界中心、アメリカ言いなりの

政治をただすため、この党を大きく伸ばしてほしい」と力を込めました。(しんぶん赤旗7月16日付けより転載)

大谷敏彰、日隈知重の両市議がともに訴え。大谷市議は、小中学校の給食費無料を求める署名運動が市長選挙の争点に押し上げ、実現まであと一歩となっていることを強調しました。

日隈市議は、マイナンバーの混乱と来年秋の保険証廃止、自衛隊に18歳の名簿提供で、「市は、市民の不安にまともな答えがない」と指摘。九州北部豪雨で被災した大鶴・上宮町の被災状況を説明し、抜本的な河川改修が必要なることを強調しました。